

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471200137
法人名	社会福祉法人 麗寿会
事業所名	社会福祉法人 麗寿会 ふれあいの家こすもす
訪問調査日	平成 19 年 11 月 29 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 28 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1471200137
法人名	社会福祉法人 麗寿会
事業所名	社会福祉法人 麗寿会 ふれあいの家こすもす
所在地	神奈川県高座郡寒川町岡田7-3-3 (電話) 0467-72-5315

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成19年11月29日	評価確定日	平成20年1月28日

【情報提供票より】(平成19年 9月 29日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	22 人	常勤	10人, 非常勤 12人, 常勤換算 15.72人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷金	有(200,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成19年9月29日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南東部総合病院、茅ヶ崎新北陵病院、茅ヶ崎中央病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>事業所は駅からバスで5分の住宅地に位置し、近くには公園がある。 事業所の理念を「ゆっくり、一緒に、楽しみながら」と定め、家庭的でかつ地域と密着して一緒に過ごすことを方針として、実践している。 同一法人の介護老人福祉施設や系列法人が経営する医療機関との連携をはかりサービスを展開し、法人全体として職員研修に積極的に取り組み、実務への反映に努め、職員の資質向上に努めている。 介護計画の作成にあたっては、日常の観察から、生活行動、言葉、気分・情緒の動きなどを「からだの機能まるごとMAP」に記録して、本人の状況把握に努め、日常の介護に活かす取り組みをしている。家族に日頃の本人の様子を知ってもらうために、介護計画とともに「からだの機能まるごとMAP」も送付している。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題はない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解し、全職員が意見を出し合い管理者がまとめた。利用者主体のゆっくりした生活支援、思い・意向の把握と介護への反映、家族との連携、地域との接触支援など、日々の取り組みに活かしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を、2ヶ月毎に、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族の出席のもとで開催している。事業所の取り組み状況、町の委託事業などを説明している。認知症に関する理解を深めるための介護者教室開催の要望を受け、地域住民向けに公民館などで開催を予定している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>「近況報告」に本人の暮らしぶり、事業所の様子を記載し、金銭管理報告と共に毎月家族に郵送している。体調変化があるときは家族にすぐ電話連絡をしている。夜間緊急対応マニュアルを整備し、家族、地域関係者、事業所関係者への連絡網を作成している。家族会や日常の訪問時などの時に、家族から意見・要望等を聞き、対応している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に本年度から加入し、地域との連携が増している。地域のどんど焼き・お祭り・車椅子ダンス・花火大会などに参加し、近隣中学校の吹奏部がボランティアに来て演奏会を開いてくれた。事業所の納涼祭には地域の方々の参加を呼びかけ、交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念「人を尊び、命を尊び、個を敬愛する」を基に、当事業所は「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」を理念としている。家庭的でかつ地域と密着して一緒に過ごすことを当事業所の方針にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示すると共に、職員採用時のオリエンテーション、年2回の法人内部研修、月1回の全体会議、日常指導などを通じて管理者から職員に理念を徹底している。職員は利用者を主体にして、利用者がゆっくり、楽しめるように対応し、また、近隣の理容院・農家販売の利用など地域とかかわる機会を多くしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内自治会に本年加入し、地域情報が入り易くなっている。どんど焼き・お祭り・車椅子ダンス・相模川の花火大会に参加し、近隣中学校の吹奏部がボランティアで演奏会を開いてくれ、また、事業所の納涼祭には地域の方々に参加を呼びかけ、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議で管理者から職員に評価の意義を説明した。管理者がまとめた自己評価票をたたき台にして職員が意見を出し合い、加筆して読み合わせた。利用者主体のゆっくりした生活支援、思い・意向の把握とケアへの反映、家族との連携、地域とのかかわりなど、日々の取り組みに活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を、2ヶ月毎に、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族、当事業所関係者が出席し開催している。事業所の取り組み状況、町の委託事業などを説明している。認知症に対する理解を深めるための介護者教室開催の要望を受け、地域住民向けに公民館などで開催を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者と連携を密にしている。町の委託事業として、生活支援型デイサービス、認知症高齢者介護教室(認知症の話、回想法など)などを行っており、認知症高齢者介護教室は平成19年に7回実施し、平成20年は8回予定している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、「近況報告」に本人の暮らしぶり、事業所の様子を記載し、請求書、出納帳の写し、領収書原本と共に家族に郵送している。体調変化があるときは家族にすぐ電話連絡をしている。夜間緊急対応マニュアルがあり、家族、地域関係者、事業所関係者への連絡網を整備している。職員の異動は極力しないようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会、納涼祭、日常の家族訪問などの時に、家族から意見・要望等を職員が聴取し、連絡ノートに青色で記入して対応している。例えば、病院への付き添いを家族が出来ない場合に職員が付き添っている。重要事項説明書等で、苦情の公的機関の相談窓口を紹介している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に職員の異動をしないようにしている。新規採用時は経験のある職員がマンツーマンで利用者への対応を指導し、利用者が徐々になれるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には、実習を含む2週間の法人研修が組まれている。法人として研修担当委員を配置し、年2回様々なテーマで研修会を開催している。また、毎月開催の定例会で研修の機会を設けることもある。外部研修への参加を促進しており、研修成果を報告書にまとめて回覧し、時には定例会等で発表し、職員間での共有化に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の事業所連絡協議会に所属し、居宅介護支援事業者、地域包括支援センターなどとのネットワークを活用するほか、神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、管理者が幹事を務め、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、県の認知症介護実践者研修の実習の受け入れも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前のアセスメントを徹底して行い、入居後の有効な支援方法を準備している。入居後は、より細かく職員が本人に係わり、徐々に馴染めるようにしている。同じ敷地内にある同一法人のデイサービス利用者が何名入居した際に、円滑に入居生活に馴染むことが出来た。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の過去の経験を活かして、豆の煮方、お饅頭の作り方を職員が教えて貰い、利用者と共におやつ、食事を作っている。納涼祭では太鼓たたきを披露した方がいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>認知症介護指導者である管理者の指導のもとで、「からだの機能まるごとMAP」に生活行動、言葉、気分・情緒の動き、興味・関心、集中できることなどを、日常観察を基に多面的に記録し、本人の状況の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>「からだの機能まるごとMAP」を基に、「アセスメントシート」(5段階分類)に整理し本人の思いを明確にし、家族の意見を反映しながら、ケアカンファレンスできめ細かく介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月～6ヶ月毎の見直しを基本としている。毎月1人に重点を置いて、「からだの機能まるごとMAP」、「アセスメントシート」、家族の意見を基にして、介護計画を見直している。家族に、本人の状況と介護計画との関連を知ってもらうために、「からだの機能まるごとMAP」、「アセスメントシート」を添付して、見直した介護計画を提示して説明している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関と医療連携を行っている。併設しているデイサービスに当事業所の利用者が訪れ、デイサービス利用者との交流をしている。病院への付き添いを家族が出来ない場合には、職員が付き添っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を聞き、かかりつけ医の受診希望があれば応じている。本人、家族の意向を考慮しながら希望者は、2週に1回医師である法人代表者による診察、週1回の歯科医の診療を受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの方針を職員に周知している。本人、家族には入居時に方針を説明し、出来る限り当事業所でケアするが、グループホームは診療機関ではないこと、24時間対応の協力医療機関との連携体制を整備していることを説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入室時には声を掛け、排泄介助の際はドアやカーテンを閉めている。記録等の個人情報は、事務室のロッカーに保管し施錠している。また、各ユニットで使用している記録で施設管理できないものは、直接目にふれないように保管している。職員は、採用時に守秘義務の同意書を提出している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間と入浴日は、ほぼ決まっているが、起床した利用者から順次朝食を摂る、買物、近隣の散歩やドライブ等、利用者が自分のペースを保ちながら暮らせるよう支援している。併設しているデイサービスへの訪問や回想法への参加等は、希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕は、利用者と職員と一緒に食事をしている。昼食は、職員が交代で利用者を見守りながら、持参のお弁当などを食べている。利用者は下ごしらえや片付け等を職員と一緒にやっている。献立を変更して出前を取ったり外食に出かけたりして、食事を楽しめるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1度の割合で男女別に曜日を決めて入浴している。職員はマンツーマンで入浴介助をし、利用者のタイミングを計ったり、ペースを尊重して入浴を楽しめるように工夫している。現在は、毎日の入浴を希望する利用者、入浴を嫌がる利用者はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水遣り、料理の味見、洗濯物たたみ等、一人ひとりの力を活かした役割の支援をしている。マニキュアをしてもらいお洒落を楽しむ、時代劇のテレビ番組を見る、歌を唄う等の楽しみごとの支援をしている。喫煙は時間と場所を決めて可能としている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は事業所の中だけで過ごすことなく、外食、近所の公園への散歩、併設のデイサービス訪問や日向ぼっこ等をしている。また、計画を立てて鎌倉への紅葉狩り、平塚市総合公園や気分転換にドライブ等にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室及び日中の玄関は施錠していない。安全面から家族の要望があり、1階ユニットの入り口は内側からは開けられないようにしている。また、2階のエレベーターは鍵を使用しないと開かないようにしている。利用者には、「出かける時は職員に声をかけてください」と掲示して呼びかけている。職員は利用者の言動や表情等から外出の傾向を把握している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署とのホットライン、集中火災報知器があり、集中火災報知器は業者による定期点検を行っている。緊急連絡網を整備し、数日分の非常食を常備している。地域の方々の避難訓練等への参加依頼は、運営推進会議を通じて働きかける予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂食量は「食事摂取量」に記録している。水分摂取量は1日1,500cc前後を目安に摂取し、水分摂取量が減った時は、申し送りで伝え、極端に減った時はケース記録に記録し、経過を見て対応している。委託業者の栄養士が作成した献立と食材を利用して栄養のバランスを確保している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>台所、食堂、浴室等の調度や設備はいずれも家庭的で、照明がまぶしすぎることはない。廊下の喫煙コーナーには、季節に合わせた切り絵を飾ったり、食卓には花が活けられており季節を味わえるようにしている。居室の換気を心掛け、冬季は加湿器を使用している。喫煙所には換気扇を設置している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、好きな芸能人のポスター、テレビ、机、整理だんす、趣味の編み物、仏壇などが整えられている。利用者によっては、今迄に住んでいた場所と同じようにレイアウトして、居心地良く過ごせるように工夫している方もいる。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 麗寿会 ふれあいの家こすもす
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県高座郡寒川町岡田7-3-3
記入者名 (管理者)	加門 大亮(ユニットリーダー 坂野 直子)
記入日	平成19年 9月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	~「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」~という事業所理念を かけ、それに向かって、その人らしく暮らしていくためのお 手伝いをしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる		
	法人研修、定例会、入職前オリエンテーションにて周知徹底 している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続 けることを大切にされた理念を、家族や地 域の人々に理解してもらえよう取り組 んでいる		
	地域における、認知症介護についての介護者教室や、地域 の民生委員向けの認知症研修の講師など、積極的に参加さ せていただいている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもら えるような日常的なつきあいができるよ うに努めている		
	自治会への参加はもちろんのこと、地域のかたがたとの気軽 な挨拶や、入居者と散歩に出かけたときなど、積極的に地域 の方々との交流に心がけている。		・野菜をもってきてくださる近所の方がいる(民生委員) ・近所の方が、毎週ボランティアに来てくださる。 ・ハーモニカ演奏のボランティアがいる。 ・畑などに散歩へ行き、そこから交流が始まり、花など持っ てきてくださる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている		
	運営推進会議においても、地域との連携や行事等への参加 については、話し合われている。 また、建物内に町の事業である子育てサポートセンターがあ り、地域の子供や父兄たちが毎日訪れている。 地元住民の方々の中にもボランティアとして訪問してくださ る方がいる。		・どんど焼きに毎年参加している。 ・近所の中学校の吹奏楽部がボランティアで演奏会に来て くださる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年に一度、地域の公民館や集会所などにて地域住民に向けて「介護者教室」を開催し、認知症についての理解を深めて頂ける様にしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月行われる、職員会議(定例会)において、自己評価及び外部評価の実施の意義等については説明をし理解を得られている。		自己評価票及び、実施後の外部評価結果は、全職員で読みあわせをし、改善点等があれば周知徹底し改善できるよう取り組んでいる。 また、職員はそれぞれ半年に1回自分自身の自己評価を行っている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催をし、積極的に報告や話し合いを行っている。 また、助言やご意見をいただいた場合についても、改善した点や、取り組みについて説明をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の事業所連絡協議会への参加。 また、町の委託事業も受託しており、行政や地域包括支援センターとの連携も行っている。 利用状況等についても、随時情報の提供を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員の研修や、認知症介護実践者研修などに職員が参加し、学ぶ機会を得ている。		出来る限り、多くの職員が学ぶ機会をもち、限られた職員だけが学ぶ機会を得るのではなく一人でも多くの職員が学び、活用できるよう今後、支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政や法人内で開催される研修への参加を職員に促している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時(解約時)については、『契約書』及び『重要事項説明書』の読みあわせを行い、不明な点等については、随時ご説明を差し上げ、理解した上で契約を結ぶようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の受け入れを行っている。 また、職員一人ひとりが入居者とゆっくりと話すことが出来るよう、傾聴の姿勢を持つように心がけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書・領収書発送の際に、『近況報告』として、明確に記載し報告を行っている。 職員の異動等についても、出来る限り大幅な職員の配置換え等はないように心がけている。</p>	<p>御家族が来所された際は、積極的にこちらからお声がけをするよう心がけている。 また、何か変わったことなどがあった際は、すぐに御家族へ連絡を入れるようにしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において、委員に家族の代表者がいる。 また、運営推進会議を開催する際には、御家族への参加の呼びかけも行っている。 家族会を年2回開催しており、ご家族様からのご意見も頂戴している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人内では、職員全体会議、事業所内では毎月『定例会』を行い、職員からの意見や提案を聞くことが出来る機会を設けている。 また、法人理事も来所した際は職員との交流にも意欲的である。 行事や、運営推進会議への参加もしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>特に夜間帯などに起こる可能性のある緊急時の対応等については、緊急時対応のマニュアルを作成し、対応することが出来るよう職員の確保をしている。 また、夜勤者は基本的には日中も対応している職員が夜勤を行っている為、日中及び夜間の状態を把握している。</p>	<p>近くの職員には、緊急時の出勤要請が出来るようシステム化している。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等については、極力最小限に抑えるよう意識し、努力している。 また、職員間でも利用者へのダメージについて敏感に察知し、職員会議等での議論も行われている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まず、法人として研修担当委員をおり、現場職員に対しての研修を行っている。 また、就職時には「ジョブローテーション」(法人内事業所の体験実習)も行っている。 また、必要に応じて随時、OJTを行っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所連絡協議会へ参加し、地域の居宅介護支援事業者、包括支援センター、その他事業所とのネットワークに参加している。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回ほど、法人本部主催の親睦会を行っている。 また、不定期ではあるが、ふれあいの家こすもすの職員で、親睦会を開き、職務におけるストレスの緩和や日頃の疲れを癒すことの出来る時間を設けている。	運営者も含め、管理者が、職員のストレスマネジメントに勤め、日頃から、職員との対話や相談を持つことが出来る場を現状よりさらに多く設けていきたいと考える。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人内において、年2回の人事考課を行っている。 自分自身を客観的に評価するチェック式の項目や、職員個人個人で自分を評価する点について言語化したものを提出、または改善を要する点についても自己評価してもらっている。このことにより、自分自身で目標を設定し向上心を持って働ける環境を整えている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の問い合わせがあった場合、ご本人・御家族に見学へ来ていただくことはもちろんのこと、入居事前にはご本人を訪問させていただいて、お話を伺ったり、ご説明をさせていただいている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の問い合わせがあった場合、ご本人・御家族に見学へ来ていただくことはもちろんのこと、入居事前にはご本人を訪問させていただいて、お話を伺ったり、ご説明をさせていただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、導入時にグループホームでの支援を必要としている状態なのかを、アセスメントし、しっかりと見極め、その方にとってどのようなサービスが有効なのかを見極め、最良の方法を選択することが出来るよう支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の訪問調査などで、ご本人様のすごされている環境を把握し、生活リズムなどについても、出来る限り事前に把握し、サービスを利用することによって、不安や心配を受けることが無いよう、または最小限にすることが出来るよう相談援助には、慎重に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員のアセスメント力の研鑽と、普段の何気ない生活の中で、寄り添い、向き合い、入居者の意思・意欲をそいでしまうことの無いよう、十分に配慮して望んでいる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の「現在」だけでなく「過去」もしっかりと捉え、把握することで「未来」に向けての取り組み(その人らしく生きることの支え)が出来るという視点から、家族からの情報提供や、ケアの方法等について話し合う機会を設けるよう心がけている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間には、基本的には規定の時間は設けることなく、御家族が来易い環境づくりに努めている。 また、御家族との外泊や、外出についてもご本人の体調等に配慮しつつも、規制等を設けることなく実施している。 事業所で行われる行事等への参加の呼びかけもしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同居されていた家族や、ご本人が以前住んでいた地域の近所にお住まいの方などの面会があり、関係が途切れないよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団の中で、利用者の仲の善し悪しに配慮することは勿論の事、入居者同士でのふれあいの場(リビング等)はいつでも集うことが出来るようスペースの確保をしている。		ふれあう機会、楽しめる時間の共有を図るために、レクリエーションや外出などの機会を作っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了した入居者家族などのボランティアでの訪問などがある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での交流を通して、一人一人の思いを伺い、その思いや希望を記録に残している。 月に一度、各ユニットごとにケアカンファレンスを行い、利用者の意向や希望を職員で共有できるようにしている。また、共有した情報をもとに利用者の希望を実現する為の方策の検討を行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込用紙に生活歴を記入する欄があり、入所に至るまでの経過をご家族と話している。それをアセスメントシートに転記している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ICFの視点に基づいたアセスメントを、スタッフ全員で行い、その内容が日常生活に反映することが出来るよう努めている。 使用するアセスメントについては、本人の出来ること・わかることを言語化し、誰が見てもわかるような書式になっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、計画作成担当者のみが関わるのではなく、スタッフ全員で取り組み、家族からの情報、日常のご本人の様子なども組み入れた形でサービス計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な、ケアプランの見直しのほか、お体の状況や日頃の生活の中で、変化が見られた場合は、随時計画の作成を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の、日中及び夜間の記録や、アセスメントから得られた情報、また常時関わっているスタッフからの情報に基づき、介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当方人の他部署における、体操やレクリエーションへの積極的な参加をし、参加の報告などを毎月ご家族様への報告を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議のメンバーでもある民生委員の来訪がある。また、地域のボランティア団体や、個人のボランティアの訪問がある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、適切に事業所以外のサービスとつなげるよう外部のケアマネジャーと連携を図ることが出来るように、地域の事業所連絡協議会への参加をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例や事業所内で解決できない問題があった場合、地域包括支援センターと協働しながら、本人本位の支援につなげることが出来るよう、普段から、関係づくりにつとめている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される時点でご本人及びご家族より意向を伺い、ご本人及びご家族にかかりつけ医の選択をしていただいている。また、必要に応じては転院の相談にのり、ご本人にとって適切な医療が受けられるよう、ご家族にとっては負担の軽減を図れるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>毎週、来る医師や法人関係機関の医師との連携をとっており、随時職員が相談したり、場合によっては御家族への助言等もおこなってもらっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>当事業所内の他部門に、常駐の看護師がおり、グループホーム入居者との関係も顔なじみ・欲知っている関係であるため、日常の健康管理や、相談にいつでものってもらえる態勢にある。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した際、入院先の病院のMSWと小まめに連絡を取り合い、利用者の身体状況・疾患についての情報の把握、今後の方向性などについての検討などを行っている</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者の健康状態などについては、医師が毎週往診に来ているため、その都度相談し、出来るかぎり早い段階で話し合いを持つことが出来ている。 また、家族に対しての説明、話し合いにも医師が積極的に関わってくれている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件等を備え、他の利用者への影響も踏まえて対応をしている。 また、今後に備えての検討や話し合いも医師との連携の下に行われている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>リロケーションダメージが、最少となるよう、本人に関わる関係者(特に御家族)の協力を得て取り組んでいる。 また、別の事業所へ転居により、暮らしやケアの継続が保たれるよう、移行先へ事業所での生活状況、個別情報の伝達等、プライバシーには、十分な配慮を心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応を徹底している。</p> <p>また、入職時には秘密保持の同意書を全職員に行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活は、おおむねのスケジュールは決まっているが、基本的には、入居者それぞれの、「したいこと」または「したくないこと」を尊重し生活していただいている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間や、レクリエーションの時間でも、入居者本人の意思を尊重し、無理強いすることなく、のびのびと生活していただくことが出来るよう支援している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に1度美容師が来所し、ヘアカットやパーマ、カラーリングなど希望に応じて行っている。</p> <p>また、希望される方は、近隣の理容室へ行かれ、安全に通えるように同行したり、理容室の店員と電話でのやりとりを行ったりしている</p>		<p>なじみの美容室へ、御家族の対応等も含め行っている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理の全てを入居者にさせていただくことは、現状は難しい状況ではあるが、出来ることは入居者の皆さんにも一緒に行っていたりしている。</p> <p>後片付けなどについても、「やってやるよ！」などと積極的な入居者もいる。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコを嗜好される方には食後等に喫煙所で喫煙していただいたり、本人や家族から伺っているお菓子を家族に持参してもらったり、購入したりしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を用いて時間帯や状況を把握し、支援している</p> <p>必要に応じて、フロア内で十分に検討を行い、ご家族にも説明しおむつからパンツへの移行なども行っている</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者によっては、その日によって入りたくなかったりする方もいるが、無理やり入浴させたり、説得したりすることなく、基本的には、ご本人の意思を尊重し支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>入眠のタイミング等については、入居者それぞれ違うので、基本的にはご本人のペースを尊重している。</p> <p>深夜に、時間の失認等があった場合は、ご本人を傷つけないように、声かけ、誘導を行い、入眠していただいている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食器拭きや、洗濯物たたみなど、一人ひとりが出来ること、役割を持つことが出来るよう支援している。</p> <p>テレビの好きな方、歌の好きな方、それぞれのやりたいことを伺い、支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>銀行の金銭管理から、行っている入居者様もあり、個人個人の出来ること・わかることを尊重し支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の利用者の気分によって外で過ごせるようにしている。過ごしやすくする為、ホームの外に寝転がれるようなソファを置いたり、その日によってそこから散歩に出かけたりしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節折々の外出の計画、実行や、家族と共に参加することが出来る行事の企画運営を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望んだ場合、電話をかけた(番号を押したりの介助をし)できるようにしている。 手紙に関しても、職員が宛先等を確認し、ポスト等へ投函している。 本人宛の文書に付いては直接本人へ渡している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、訪問時には、居室でお茶をのんだり、談笑したるすることがある。 玄関は、日常は常に開放されており、本人の居室やフリースペースは、気兼ねすることなく訪問者も過ごせるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	過去から現在において、身体拘束を行ったことはない。 入居者の方々の行動に受容している。徘徊や、転倒の危険性のある入居者に対しては、危険等を留意し見守りの体制をとっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関に鍵を掛けることはしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時間帯別に1人は見守りが出来るような業務分担をしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は鍵のかかるところへの保管を行っている。 包丁や洗剤類などは、鍵のかかるところへの保管を徹底している。		薬は、鍵のかかるところへの保管を行っている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々、入居者一人ひとりの状態や体調の変化を、申し送りや記録により職員全体で把握し、事故防止に取り組んでいる。 また、ヒヤリハットの活用も行っている。毎月の定例会議においても、全体で再度認識できるよう周知している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤帯においては、マニュアルに沿って適宜必要な対応を行っている。 夜間帯においても、マニュアルに沿って対応・行動している。また、定例会議においても、適宜緊急時の対応について、復習をするなど周知している。また、マニュアルは見やすいところへの掲示をしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で自治会の方と相談し、一緒に消防訓練が取り組めるよう話を進めている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	通常、毎月近況報告にてご家族等への説明を行っている。また、急変等が発生した場合は、即連絡を取る等、連絡を綿密に行っている。 リスク対応についても家族とのコミュニケーションをしっかりと取っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌、ケース記録、申し送り等で、勤務していなかった時の事等、スタッフ全員が情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わったりする毎に、個別ケース記録へのファイリングや、日誌、申し送り等においても情報の伝達を行っている。 疑問点などについては、薬剤師への相談も行っている。 服薬のチェックシートも活用している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主に午前中は体操等をほぼ毎日取り組んでいる。 排便等に付いては、チェックシートにおいても分かる範囲内で、チェックを行い把握につとめている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。 また、毎週月曜日には、訪問歯科による歯科衛生士の口腔ケアも行っている入居者もいる。 入れ歯に付いては、毎日の消毒を行っている。自分で出来る方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量など、チェック表にて把握できるよう支援している。 入居者一人ひとりの情報を毎食確認している。 水分量が少ない方にはゼリーや果物を提供し、無理なく水分を補給できるように支援している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを置き、職員が見ることができるようになっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用の都度、布巾を消毒したり、毎日まな板の消毒を行っている。 食材の管理についても毎日入荷し、新鮮で安全な食材を使用するよう徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りなどに花などの植物が植えてある。 入居者が楽しむことが出来るよう、明るくキレイなホームづくりにつとめている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下など共有スペースには写真や、入居者の皆さんの作品などを展示し、季節感や思い出の写真などを飾り、心地よく過ごすことができるよう工夫している。 日付が確認しやすいよう、大きな日めくりカレンダーを掲示している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やフロア（リビング）で過ごされ、入居者の方々が自分の時間を自分なりに楽しむことが出来るよう雰囲気作りにつとめている。 フロアによって、広さは違うが気持ちよく過ごすことが出来るよう環境を整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具等を持ち込むことができ、本人が心地よく安心して過ごすことが出来るよう支援している。 持込の家具に基本的には制限をしていない。 利用者の好きな芸能人のポスターを居室に利用者と相談しながら掲示したりし、本人にとって居心地良い空間を作っている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や、エアコン等による室温調節をおこない、入居者の好みに応じて小まめに対応している。 居室内でポータブルトイレを使用されている方には、消臭剤などを使って臭いが気にならない様に工夫している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を最小限に抑え、手すりなどを各所に設置し、安全で安心して過ごすことが出来るよう工夫されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声かけのタイミングや、目印などは入居者の必要性に応じ臨機応変に対応することが出来るよう柔軟に対応している。 混乱、失敗を防ぐのではなく、そうならないよう職員それぞれが、入居者の状況を把握するようつとめ、支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	のんびり過ごせるよう庭にソファを置いたり、トマトや紫蘇など、家庭菜園を行っている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人 麗寿会 ふれあいの家こすもす
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県高座郡寒川町岡田7-3-3
記入者名 (管理者)	加門 大亮(ユニットリーダー 矢野 尚美)
記入日	平成19年 9月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	~「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」~という事業所理念を かけ、それに向かって、その人らしく暮らしていくためのお 手伝いをしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の 実践に向けて日々取り組んでいる		
	法人研修、定例会、入職前オリエンテーションにて周知徹底 している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続 けることを大切にされた理念を、家族や地 域の人々に理解してもらえよう取り組 んでいる		
	地域における、認知症介護についての介護者教室や、地域 の民生委員向けの認知症研修の講師など、積極的に参加さ せていただいている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声 をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもら えるような日常的なつきあいができるよ うに努めている		
	自治会への参加はもちろんのこと、地域のかたがたとの気軽 な挨拶や、入居者と散歩に出かけたときなど、積極的に地域 の方々との交流に心がけている。		・野菜をもってきてくださる近所の方がいる(民生委員) ・近所の方が、毎週ボランティアに来てくださる。 ・畑などに散歩へ行き、そこから交流が始まり、花など持っ てきてくださる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている		
	運営推進会議においても、地域との連携や行事等への参加 については、話し合われている。 また、建物内に町の事業である子育てサポートセンターがあ り、地域の子供や父兄たちが毎日訪れている。 地元住民の方々の中にもボランティアとして訪問してくださ る方がいる。		・どんど焼きに毎年参加している。 ・近所の中学校の吹奏楽部がボランティアで演奏会に来て くださる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年に一度、地域の公民館や集会所などにて地域住民に向けて「介護者教室」を開催し、認知症についての理解を深めて頂ける様にしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月行われる、職員会議(定例会)において、自己評価及び外部評価の実施の意義等については説明をし理解を得られている。		自己評価票及び、実施後の外部評価結果は、全職員で読みあわせをし、改善点等があれば周知徹底し改善できるよう取り組んでいる。 また、職員はそれぞれ半年に1回自分自身の自己評価を行っている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催をし、積極的に報告や話し合いを行っている。 また、助言やご意見をいただいた場合についても、改善した点や、取り組みについて説明をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の事業所連絡協議会への参加。 また、町の委託事業も受託しており、行政や地域包括支援センターとの連携も行っている。 利用状況等についても、随時情報の提供を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	介護支援専門員の研修や、認知症介護実践者研修などに職員が参加し、学ぶ機会を得ている。		出来る限り、多くの職員が学ぶ機会をもち、限られた職員だけが学ぶ機会を得るのではなく一人でも多くの職員が学び、活用できるよう今後、支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政や法人内で開催される研修への参加を職員に促している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時(解約時)については、『契約書』及び『重要事項説明書』の読みあわせを行い、不明な点等については、随時ご説明を差し上げ、理解した上で契約を結ぶようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の受け入れを行っている。 また、職員一人ひとりが入居者とゆっくりと話すことが出来るよう、傾聴の姿勢を持つように心がけている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月の請求書・領収書発送の際に、『近況報告』として、明確に記載し報告を行っている。 職員の異動等についても、出来る限り大幅な職員の配置換え等はないように心がけている。</p>	<p>御家族が来所された際は、積極的にこちらからお声がけをするよう心がけている。 また、何か変わったことなどがあった際は、すぐに御家族へ連絡を入れるようにしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において、委員に家族の代表者がいる。 また、運営推進会議を開催する際には、御家族への参加の呼びかけも行っている。 家族会を年2回開催しており、ご家族様からのご意見も頂戴している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>法人内では、職員全体会議、事業所内では毎月『定例会』を行い、職員からの意見や提案を聞くことが出来る機会を設けている。 また、法人理事も来所した際は職員との交流にも意欲的である。 行事や、運営推進会議への参加もしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>特に夜間帯などに起こる可能性のある緊急時の対応等については、緊急時対応のマニュアルを作成し、対応することが出来るよう職員の確保をしている。 また、夜勤者は基本的には日中も対応している職員が夜勤を行っている為、日中及び夜間の状態を把握している。</p>	<p>近くの職員には、緊急時の出勤要請が出来るようシステム化している。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等については、極力最小限に抑えるよう意識し、努力している。 また、職員間でも利用者へのダメージについて敏感に察知し、職員会議等での議論も行われている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	まず、法人として研修担当委員をおり、現場職員に対しての研修を行っている。 また、就職時においては「ジョブローテーション」(法人内事業所の体験実習)も行っている。 また、必要に応じて随時、OJTを行っている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所連絡協議会へ参加し、地域の居宅介護支援事業者、包括支援センター、その他事業所とのネットワークに参加している。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回ほど、法人本部主催の親睦会を行っている。 また、不定期ではあるが、ふれあいの家こすもすの職員で、親睦会を開き、職務におけるストレスの緩和や日頃の疲れを癒すことの出来る時間を設けている。	運営者も含め、管理者が、職員のストレスマネジメントに勤め、日頃から、職員との対話や相談を持つことが出来る場を現状よりさらに多く設けていきたいと考える。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人内において、年2回の人事考課を行っている。 自分自身を客観的に評価するチェック式の項目や、職員個人個人で自分を評価する点について言語化したものを提出、または改善を要する点についても自己評価してもらっている。このことにより、自分自身で目標を設定し向上心を持って働ける環境を整えている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の問い合わせがあった場合、ご本人・御家族に見学へ来ていただくことはもちろんのこと、入居事前にはご本人を訪問させていただいて、お話を伺ったり、ご説明をさせていただいている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望の問い合わせがあった場合、ご本人・御家族に見学へ来ていただくことはもちろんのこと、入居事前にはご本人を訪問させていただいて、お話を伺ったり、ご説明をさせていただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受け、導入時にグループホームでの支援を必要としている状態なのかを、アセスメントし、しっかりと見極め、その方にとってどのようなサービスが有効なのかを見極め、最良の方法を選択することが出来るよう支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の訪問調査などで、ご本人様のすごされている環境を把握し、生活リズムなどについても、出来る限り事前に把握し、サービスを利用することによって、不安や心配を受けることが無いよう、または最小限にすることが出来るよう相談援助には、慎重に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員のアセスメント力の研鑽と、普段の何気ない生活の中で、寄り添い、向き合い、入居者の意思・意欲をそいでしまうことの無いよう、十分に配慮して望んでいる。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の「現在」だけでなく「過去」もしっかりと捉え、把握することで「未来」に向けての取り組み(その人らしく生きることの支え)が出来るという視点から、家族からの情報提供や、ケアの方法等について話し合う機会を設けるよう心がけている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間には、基本的には規定の時間は設けることなく、御家族が来易い環境づくりに努めている。 また、御家族との外泊や、外出についてもご本人の体調等に配慮しつつも、規制等を設けることなく実施している。 事業所で行われる行事等への参加の呼びかけもしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同居されていた家族や、ご本人が以前住んでいた地域の近所にお住まいの方などの面会があり、関係が途切れないよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団の中で、利用者の仲の善し悪しに配慮することは勿論の事、入居者同士でのふれあいの場(リビング等)はいつでも集うことが出来るようスペースの確保をしている。		ふれあう機会、楽しめる時間の共有を図るために、レクリエーションや外出などの機会を作っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了した入居者家族などのボランティアでの訪問などがある。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での交流を通して、一人一人の思いを伺い、その思いや希望を記録に残している。 月に一度、各ユニットごとにケアカンファレンスを行い、利用者の意向や希望を職員で共有できるようにしている。また、共有した情報をもとに利用者の希望を実現する為の方策の検討を行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申込用紙に生活歴を記入する欄があり、入所に至るまでの経過をご家族と話している。それをアセスメントシートに転記している		入所後も、御家族などに情報をうかがう機会を設けている。 (面会時・家族会など) 知りえた生活歴等は、スタッフ全員が把握することが出来るよう、常に情報を共有できるよう伝達しあっている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ICFの視点に基づいたアセスメントを、スタッフ全員で行い、その内容が日常生活に反映することが出来るよう努めている。 使用するアセスメントについては、本人の出来ること・わかることを言語化し、誰が見てもわかるような書式になっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、計画作成担当者のみが関わるのではなく、スタッフ全員で取り組み、家族からの情報、日常のご本人の様子なども組み入れた形でサービス計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な、ケアプランの見直しのほか、お体の状況や日頃の生活の中で、変化が見られた場合は、随時計画の作成を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の、日中及び夜間の記録や、アセスメントから得られた情報、また常時関わっているスタッフからの情報に基づき、介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当方人の他部署における、体操やレクリエーションへの積極的な参加をし、参加の報告などを毎月ご家族様への報告を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議のメンバーでもある民生委員の来訪がある。また、地域のボランティア団体や、個人のボランティアの訪問がある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、適切に事業所以外のサービスとつなげるよう外部のケアマネジャーと連携を図ることが出来るように、地域の事業所連絡協議会への参加をしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例や事業所内で解決できない問題があった場合、地域包括支援センターと協働しながら、本人本位の支援につなげることが出来るよう、普段から、関係づくりにつとめている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される時点でご本人及びご家族より意向を伺い、ご本人及びご家族にかかりつけ医の選択をしていただいている。また、必要に応じては転院の相談にのり、ご本人にとって適切な医療が受けられるよう、ご家族にとっては負担の軽減を図れるようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>毎週、来る医師や法人関係機関の医師との連携をとっており、随時職員が相談したり、場合によっては御家族への助言等もおこなってもらっている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>当事業所内の他部門に、常駐の看護師がおり、グループホーム入居者との関係も顔なじみ・欲知っている関係であるため、日常の健康管理や、相談にいつでものってもらえる態勢にある。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した際、入院先の病院のMSWと小まめに連絡を取り合い、利用者の身体状況・疾患についての情報の把握、今後の方向性などについての検討などを行っている</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者の健康状態などについては、医師が毎週往診に来ているため、その都度相談し、出来るかぎり早い段階で話し合いを持つことが出来ている。 また、家族に対しての説明、話し合いにも医師が積極的に関わってくれている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度や終末期の利用者を支えるために、チームの連携、職員の力量、諸条件等を備え、他の利用者への影響も踏まえて対応をしている。 また、今後に備えての検討や話し合いも医師との連携の下に行われている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>リロケーションダメージが、最少となるよう、本人に関わる関係者(特に御家族)の協力を得て取り組んでいる。 また、別の事業所へ転居により、暮らしやケアの継続が保たれるよう、移行先へ事業所での生活状況、個別情報の伝達等、プライバシーには、十分な配慮を心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応を徹底している。</p> <p>また、入職時には秘密保持の同意書を全職員に行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活は、おおむねのスケジュールは決まっているが、基本的には、入居者それぞれの、「したいこと」または「したくないこと」を尊重し生活していただいている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間や、レクリエーションの時間でも、入居者本人の意思を尊重し、無理強いすることなく、のびのびと生活していただくことが出来るよう支援している。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>月に1度美容師が来所し、ヘアカットやパーマ、カラーリングなど希望に応じて行っている。</p> <p>また、希望される方は、近隣の理容室へ行かれ、安全に通えるように同行したり、理容室の店員と電話でのやりとりを行ったりしている</p>		<p>なじみの理容室へ、行っている。</p> <p>また、ご本人の好みや意向を引き出すことが出来るよう支援をしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理の全てを入居者にさせていただくことは、現状は難しい状況ではあるが、出来ることは入居者の皆さんにも一緒に行っていたりしている。</p> <p>後片付けなどについても、「やってやるよ！」などと積極的な入居者もいる。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>タバコを嗜好される方には食後等に喫煙所で喫煙していただいたり、本人や家族から伺っているお菓子を家族に持参してもらったり、購入したりしている</p>		<p>利用者が自宅で生活しているときに、すこしでも近づくことが出来るよう支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄チェック表を用いて時間帯や状況を把握し、支援している</p> <p>必要に応じて、フロア内で十分に検討を行い、ご家族にも説明しおむつからパンツへの移行なども行っている</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者によっては、その日によって入りたくなかったりする方もいるが、無理やり入浴させたり、説得したりすることなく、基本的には、ご本人の意思を尊重し支援している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>入眠のタイミング等については、入居者それぞれ違うので、基本的にはご本人のペースを尊重している。</p> <p>深夜に、時間の失認等があった場合は、ご本人を傷つけないように、声かけ、誘導を行い、入眠していただいている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食器拭きや、洗濯物たたみなど、一人ひとりが出来ること、役割を持つことが出来るよう支援している。</p> <p>テレビの好きな方、歌の好きな方、それぞれのやりたいことを伺い、支援している。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>銀行の金銭管理から、行っている入居者様もあり、個人個人の出来ること・わかることを尊重し支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>その日の利用者の気分によって外で過ごせるようにしている。過ごしやすくする為、ホームの外に寝転がれるようなソファを置いたり、その日によってそこから散歩に出かけたりしている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>季節折々の外出の計画、実行や、家族と共に参加することが出来る行事の企画運営を行っている。</p>		個別の支援がしていくことも行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望んだ場合、電話をかけた(番号を押したりの介助をし)できるようにしている。 手紙に関しても、職員が宛先等を確認し、ポスト等へ投函している。 本人宛の文書に付いては直接本人へ渡している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、訪問時には、居室でお茶をのんだり、談笑したるすることがある。 玄関は、日常は常に開放されており、本人の居室やフリースペースは、気兼ねすることなく訪問者も過ごせるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	過去から現在において、身体拘束を行ったことはない。 入居者の方々の行動に受容している。徘徊や、転倒の危険性のある入居者に対しては、危険等を留意し見守りの体制をとっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は、玄関に鍵を掛けることはしていない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	時間帯別に1人は見守りが出来るような業務分担をしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は鍵のかかる場所への保管を行っている。 包丁や洗剤類などは、鍵のかかる場所への保管を徹底している。		薬は、利用者のでのとどかないところへ、保管してある。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々、入居者一人ひとりの状態や体調の変化を、申し送りや記録により職員全体で把握し、事故防止に取り組んでいる。 また、ヒヤリハットの活用も行っている。毎月の定例会議においても、全体で再度認識できるよう周知している。		火災時については、今後も継続的に職員間で再確認をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	日勤帯においては、マニュアルに沿って適宜必要な対応を行っている。 夜間帯においても、マニュアルに沿って対応・行動している。また、定例会議においても、適宜緊急時の対応について、復習をするなど周知している。また、マニュアルは見やすいところへの掲示をしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で自治会の方と相談し、一緒に消防訓練が取り組めるよう話を進めている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	通常、毎月近況報告にてご家族等への説明を行っている。また、急変等が発生した場合は、即連絡を取る等、連絡を綿密に行っている。 リスク対応についても家族とのコミュニケーションをしっかりと取っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日誌、ケース記録、申し送り等で、勤務していなかった時の事等、スタッフ全員が情報を共有している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変わったりする毎に、個別ケース記録へのファイリングや、日誌、申し送り等においても情報の伝達を行っている。 疑問点などについては、薬剤師への相談も行っている。 服薬のチェックシートも活用している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主に午前中は体操等をほぼ毎日取り組んでいる。 排便等に付いては、チェックシートにおいても分かる範囲内で、チェックを行い把握につとめている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを徹底している。 また、毎週月曜日には、訪問歯科による歯科衛生士の口腔ケアも行っている入居者もいる。 入れ歯に付いては、毎日の消毒を行っている。自分で出来る方もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量など、チェック表にて把握できるよう支援している。 入居者一人ひとりの情報を毎食確認している。 水分量が少ない方にはゼリーや果物を提供し、無理なく水分を補給できるように支援している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを置き、職員が見ることができるようになっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用の都度、布巾を消毒したり、毎日まな板の消毒を行っている。 食材の管理についても毎日入荷し、新鮮で安全な食材を使用するよう徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周りなどに花などの植物が植えてある。 入居者が楽しむことが出来るよう、明るくキレイなホームづくりにつとめている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下など共有スペースには写真や、入居者の皆さんの作品などを展示し、季節感や思い出の写真などを飾り、心地よく過ごすことができるよう工夫している。 日付が確認しやすいよう、大きな日めくりカレンダーを掲示している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やフロア（リビング）で過ごされ、入居者の方々が自分の時間を自分なりに楽しむことが出来るよう雰囲気作りにつとめている。 フロアによって、広さは違うが気持ちよく過ごすことが出来るよう環境を整えている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具等を持ち込むことができ、本人が心地よく安心して過ごすことが出来るよう支援している。 持込の家具に基本的には制限をしていない。 利用者の好きな芸能人のポスターを居室に利用者と相談しながら掲示したりし、本人にとって居心地良い空間を作っている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や、エアコン等による室温調節をおこない、入居者の好みに応じて小まめに対応している。 居室内でポータブルトイレを使用されている方には、消臭剤などを使って臭いが気にならない様に工夫している		ほぼ毎日、居室など空気の入替えは、出来ている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を最小限に抑え、手すりなどを各所に設置し、安全で安心して過ごすことが出来るよう工夫されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声かけのタイミングや、目印などは入居者の必要性に応じ臨機応変に対応することが出来るよう柔軟に対応している。 混乱、失敗を防ぐのではなく、そうならないよう職員それぞれが、入居者の状況を把握するようつとめ、支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	のんびり過ごせるよう庭にソファを置いたり、トマトや紫蘇など、家庭菜園を行っている。		園芸療法を取り入れ、入居者と一緒に毎日の水やりを日課にしている。 入居者によっては、成長を気にして何度も見に行ったりする入居者がいる。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)